



リサ・クリスティ

共同最高経営責任者

リサ・クリスティは、オーディエンスを深く理解し、最適な形でコミュニケーションを設計することを専門とするリーダーである。現在は中西玲人とともにポートランド日本庭園の共同最高経営責任者（共同CEO）を務め、同庭園を次代の文化的リーダーシップ、地域連携、国際交流の新たな段階へと導いている。

2014年、建築家・隈研吾による歴史的拡張事業「カルチュラル・クロッシング」が始動する重要な局面において、マーケティング&コミュニケーション・ディレクターとして同庭園に参画。その後、首席渉外担当、首席執行役員を歴任し、2026年に共同CEOに就任した。

クリスティのリーダーシップの根幹には、アートに根ざした原体験がある。幼少期よりクラシック・ピアニストとして研鑽を積み、演奏家の道を志す中で、規律、繊細さ、そして言葉を超えて感情を伝える力を体得した。やがて彼女は、自身の真の関心が「人がどのようにつながり、何に心を動かされ、どのように帰属意識を育むのか」を理解することにあると気づき、コミュニケーションの道へと進んだ。その洞察は現在のリーダーシップにも息づいており、「早く行きたければ一人で行け。遠くへ行きたければ、共に行け」という哲学を指針としている。

共同CEO着任前、クリスティはポートランド日本庭園が地域社会とどのように向き合うかを戦略的にマッピングすることで渉外部門を7倍規模に拡大し、包括的なリブランディングを主導。カルチュラル・ビレッジ開設時の広報戦略を統括し、国内外で高い評価を獲得した。また、来園者体験の戦略構築、地域アクセスと参加型プログラムの拡充を進め、会員数・来園者数ともに記録的な成長を実現している。

ポートランド日本庭園に参画する以前は、広告代理店Wieden + Kennedyに約10年間在籍し、過去20年を代表する数々の影響力あるキャンペーンに携わった。代表作には、オールドスパイスの「The Man Your Man Could Smell Like」、P&Gのオリンピック・キャンペーン「Thank You, Mom」などがあり、ソニー、スターバックス、トラベル・オレゴンといったブランドも担当した。ソニーのキャンペーンでの訪日経験や、トラベル・オレゴンでの観光プロモーションの仕事が、日本文化への関心を深め、ポートランド日本庭園という理想的な職場へとつながった。キャリア初期には、ミネアポリスおよびカンザスシティの広告代理店でも経験を積んでいる。

ミドル・テネシー州立大学でコミュニケーション学の学士号、ミシガン州立大学で広告学の修士号を取得後、教育への強い情熱を持つメンターとして、テネシー大学で3年間フルタイムの非常勤講師を務め、「Lecturer of the Year」に選出された経験を持つ。現在も大学や専門団体、地域組織での講演活動を続けている。

現在はポートランド在住。夫と13歳の息子と暮らしており、息子の数えきれないほどの野球の試合に家族総出で奔走する日々を送っている。



中西 玲人

共同最高経営責任者
上席執行役員（文化・芸術・教育担当キュレーター）

中西玲人は、政府間関係、パブリック・コミュニケーション、文化プログラミング、芸術交流の分野において約30年にわたる経験を有する国際的な文化リーダーであり、文化政策・外交のエキスパートである。主にアメリカ政府側の一員として世界各地の多様な聴衆に向けて影響力のある文化事業を構想・実現してきた実績を持ち、現在はリサ・クリスティとともにポートランド日本庭園の共同最高経営責任者を務めると同時にアーリン・シュニッツァー・キュレーター（文化・芸術・教育担当）として、同庭園の文化的ビジョン、国内外のパートナーシップ、分野横断的なプログラム全体を統括している。

ポートランド日本庭園では、これまでに1,000を超える文化プログラムを主導し、同庭園を文化外交における有力な拠点へと押し上げてきた。企画内容は、美術展、季節行事、文化体験、ワークショップ、セミナー、講演、コンサート、国際会議、さらには食文化プログラムにまで及ぶ。地域と国際社会をつなぐ戦略的な視点のもと、日本と米国の両国において幅広いパートナーおよび支援者のネットワークを築き上げ、太平洋を挟んだ両岸におけるポートランドの存在感を高めながら日本文化の世界発信を展開している。

2018年に米国へ家族4人で移住するまでの10年間、中西はアメリカ合衆国大使館にて文化担当官首席補佐として勤務した。この間、日米相互理解を深めることを目的とした文化・芸術・教育分野の幅広い事業を統括し、大使館の文化担当官に対する首席補佐として、また複数の駐日米国大使に対する主要な文化アドバイザーとして、在日米国公館の文化外交戦略の形成に中心的な役割を果たした。ジョン・V・ルース大使の下で展開された「時の流れと絆：日米の作家たち」や、キャロライン・B・ケネディ大使時代の国際ポエトリー交流プロジェクトなど、高い評価を受けた事業を直接統括し、芸術と教育を通じた長期的な人的交流の基盤強化に貢献した。

大使館での職務と並行して、独立したアーティストック・ディレクターとしても活動し、2016年から2017年にかけてのArt Photo Tokyo、2012年から2018年までの東京国際文芸フェスティバルなど、大規模な展覧会やアートフェアの企画・運営を手がけた。また、文化関連出版物への寄稿、各種文化事業の企画書執筆にも携わると同時に、日本国内の地域活性化と若者支援を目的とする非営利団体「echovisions」を設立した。

アメリカ合衆国大使館での功績により、米國務省殊勲賞（2010年）、アメリカ合衆国大使館イーグルアワード（2011年）、アメリカ合衆国大使館殊勲賞（2016年）を受賞している。

キャリアの出発点は日本の大手メディアでのディレクター職であり、そこでパブリック・コミュニケーション、番組開発、視聴者との関係構築に関する基礎を培った。その後、現代美術の世界に身を置き、人間の創造性とキュレーションの本質への理解を深めるべく、アートディーラーとして新進気鋭の作家と国際的な舞台を結びつける活動を行った。

国立政策研究大学院大学にて文化政策の修士号を取得。現在は本職の傍らケンブリッジ大学（英国）博士課程在籍中で、室町期における文化的媒介者と芸術ネットワークをテーマに研究を進めている。